

誹謗中傷

「誹謗中傷」とは

「誹謗」とは他人へ悪口を言ったり罵ったりする行為を、「中傷」とは根拠のない嘘やでたらめを述べる行為をそれぞれ意味する。この2つの言葉は元来独立して使われてきたが、近年この2語がしばしば合体して「誹謗中傷」としてよく使われるようになってきた。「誹謗中傷」はデマや揶揄、罵倒、愚弄、嫌がらせなどを含む「言葉による暴力」と同じ意味である。

法律では、「誹謗中傷」行為そのものではなく、その結果として引き起こされる**権利侵害**（名誉毀損、侮辱、信用毀損）や**業務妨害**などが罪に問われることとなる。

自由な発信の裏側に

インターネットでは自由に書き込みができ、自分の意見を思いのままに発信することが可能である。発信に係るコストや手間などが他のメディアに比べ格段に低く、しかも**ネットワークの特性**(→p.73)の1つである**匿名性**(→p.66)のため、相手の顔が見えない。

これらのことから、コミュニケーションを行う際に自分の思いだけが先行し、相手の生の感情を読み取ったり理解したりすることが少なくなる。その結果、相手の立場を配慮せず、安易に高圧的な言葉を発したり、思いやりに欠けた発言をしたりすることがしばしば起こってしまう。

そのような行為の結果として、名誉毀損や侮辱が頻繁に発生している。普段の対面式コミュニケーションでは考えられないような物静かな人物が、いったんネットにログインすると正反対の人格となって相手を口汚くののしったり、高圧的な発言をしたりすることも珍しくない。

誹謗中傷が発生しやすい環境

誹謗中傷による人権侵害は現実の日常社会でも起こり得るが、電子的なコミュニケーションツールを用いることで被害がさらに深刻なものになる場合

がある。

例えば、学校裏サイト(→p.20)のような電子掲示板では、管理者の監視が行き届かないため、ルールを無視して好き勝手に書き込みが行われている。また、「2ちゃんねる」に代表される匿名掲示板では、多くのスレッド(掲示板の話題)で誹謗中傷が発生したり、事実無根のデマや恐喝、犯罪予告(→p.74)まで書き込まれたりしている。

このように、匿名性が高く、管理されていない掲示板は誹謗中傷が発生しやすい環境にあるといえる。書き込む内容があまりにも悪質だと投稿ブロック(アクセス規制)処分となったり、場合によっては犯罪として捜査の対象となったりする。

ネットへの書き込みは報道と同じ責任がある

最高裁判所は、個人がネット上に名誉棄損となる書き込みをした場合でも、ネット情報は不特定多数が瞬時に閲覧可能で被害が深刻な場合もあり得ることや、ネット上の反論で名誉回復が図られる保証がない点を考慮して、メディア報道などと同じ基準で判断すべきだとする判断を示している。「ネットには不正確な情報も多いので、誹謗中傷を書き込んでも厳しく罪を問われない」という甘い考えが通用しないことが明らかになった。

ネットへの書き込みは、報道と同等に発信者に責任があることを自覚しなければならないのである。